

2024年5月26日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 47 「神を尊ぶ祈り」

エレミヤ9：22～23、ルカ1：46～55

問122 第一の願いは何ですか。

答 「み名をあがめさせたまえ」です。すなわち、第一に、わたしたちが、あなたを正しく知り、あなたの全能、知恵、善、正義、慈愛、真理を照らし出す、そのすべての御業において、あなたを聖なるお方とし、あがめ、讚美できるようにさせてください、ということ。第二に、わたしたちが自分の生活のすべて、すなわち、その思いと言葉と行いを正して、あなたの御名がわたしたちのゆえに汚されることなく、かえってあがめられ讚美されるようにしてください、ということです。

「正しく知り」とあります。神さまを正しく知るとは、どういうことでしょうか。知識として知っている、教理として理解していることでしょうか。カルヴァンの書きました『ジュネーブ教会信仰問答』では、問1で「人生の目的は何ですか」と問うて、「神を知ることです」と答えます。さらに問答を読み進めていきますと、「神をあがめる目的で神を知ることである」（問6）と答え、さらには「神をイエス・キリストにおいて知ること」（問14）と答えます。この問答の根拠になっている御言葉は、「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」（ヨハネ17：3）です。同じヨハネ福音書の冒頭にも「父のふところにいる独り子である神、この方が神を示された」（1：18）とあります。イエスさまが神さまを示された。わたしたちが神さまを知ることができるならば、それはイエスさまによって神さまを知るのです。そこに正しい知り方があると申し上げてよいでしょう。

では、イエスさまはどのようなお方でしょうか。イエスさまはどのようにしてまことの神さまを表されたでしょう。有名な御言葉があります。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」（フィリピ2：6～8）神さまでありながらも、わたしたちのところへ来られ、僕となって仕えてくださった。最後は十字架で死んでくださいました。神さまは、ただ上から見下ろしておられるだけのお方ではない。わたしたちと同じところに立ってくださるのです。いやそれよりも低いところに降られる。あらゆる悲しみ、苦しみ、痛みを経験されました。そのようにしてわたしたちを知ってくださいるのです。わたしたちが神さまを知る前に、神さまの方からわたしたちに限りなく近づいて、わたしたちを知ってくださいました。この神さまの「知り方」は単なる知識ではありません。人格的な交わりを通して相手を知るのです。それは、むしろ「出会う」と表現した方がよいかもしれません。そこには生きた命の交流があります。そのようにして神さまから知られ、わたしたちもそのように神さまを知る。そこに正しい知り方があります。

私ごとで恐縮ですが、熊本に母の先祖の墓があり、その墓参りも兼ねて母方の親戚が熊本に集まりました。その晩は食事をしながらいろいろなことを話しました。話してみると、家族のことでも間違っていて伝わっていることも分かりました。実際に会って見ないと分からないことがあります。それまでは伝え聞いたところで、自分なりの憶測や思い込み、先入観も加わって誤解しているところがあった。それでは正しく知ることにはなりません。でも実際に会って、話を

して分かるのです。そう考えますと、わたしたちは案外知っているようで知らないことが多いのではないのでしょうか。だからどうしても実際に会うことが必要なのです。

わたしたちが神さまと出会う、その出会いの接点はどこかと申しますと、それはイエスさまです。イエスさまを通して、わたしたちは神さまと出会います。そこにはまことの人となられたイエスさまとの出会い、人格的な命の交流があります。このイエスさまにこそ、信仰問答の言葉にあるように、神さまの全能、知恵、善、正義、慈愛、真理が現れました。そしてこのイエスさまに結ばれ、洗礼を受けて、その救いの御業に触れたときに、わたしたちは神さまを聖なるお方として、あがめ、賛美できるように導かれていくでしょう。それは神さまを愛し、礼拝するということです。神さまを正しく知るということは、神さまを正しく礼拝することに他なりません。

そして、そこにわたしたちの生活の目的もあります。神さまを礼拝することを通して、わたしたちの日々の歩みも自ずとそのように整えられていくでしょう。「わたしたちが自分の生活のすべて、すなわち、その思いと言葉と行いを正して、あなたの御名がわたしたちのゆえに汚されることなく、かえってあがめられ讃美されるようにしてください」思いも言葉も行いも、この生活がすべて神さまの御名をあがめる生活になるのです。

わたしたちは神さまを尊ぶことができませんでした。むしろその思いと言葉と行いで神さまの顔に泥を塗り、その御名を汚しておりました。それが人間の罪です。けれどもイエスさまに結ばれて、神さまと深く出会う中で、罪赦され、清められて、その生活の全てが神さまをあがめるものと昇華されていきます。そこにわたしたちが生きるべき本来の人間性があります。神さまが人間をお造りになられた時に極めて良かったと祝福されたその本来のわたしが輝き出すのです。

毎週の礼拝は、その聖なる輝きを取り戻す時なのかもしれません。この輝きを持ってわたしたちが誰かと出会う時、それは、そこに神さまとの出会いをもたらします。もちろん、わたしたちはそれにふさわしい存在ではないでしょう。けれども、そのように御名をあがめる人生に招かれている恵みに応え、少しでもその尊い御名にふさわしく、聖なる輝きをもって生きることができるよう、「御名をあがめさせたまえ」と祈り続ける者でありたいと願います。

天の父よ。あなたがどれほど深くわたしたちを知っていてくださるのか。しかもあなたに背を向けるようなわたしたちを顧みてくださる、その恵みを思い、あなたの御名をほめたたえます。どうぞそのようにしてあなたが私どもと出会っていてくださることに応えて、私どももあなたと出会い、あなたを尊び、また隣人と出会い、隣人を尊ぶことができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。